

FRONT



より安全で快適なアルミフロント商品の普及促進に向けて

～施工編～

一般社団法人 日本サッシ協会

はじめに

日本国内における竜巻を含む突風や集中豪雨の発生件数は年々増加傾向にあり、アルミフロント商品の供給においてはこれまで以上に風雨に対して注意を払う必要があります。

こうした状況の中、幸いにもアルミフロント商品においては風雨による大きな被害は発生しておりませんが、近年では万が一の災害発生時、その原因によっては商品の供給者が責任を問われる時代です。

当協会では、アルミフロント商品の耐風圧における協会基準について「耐風圧編」を、またアルミフロント商品および建物内への雨水の浸入を防ぐための共通事項として「防水処理編」のリーフレットを発行して参りました。

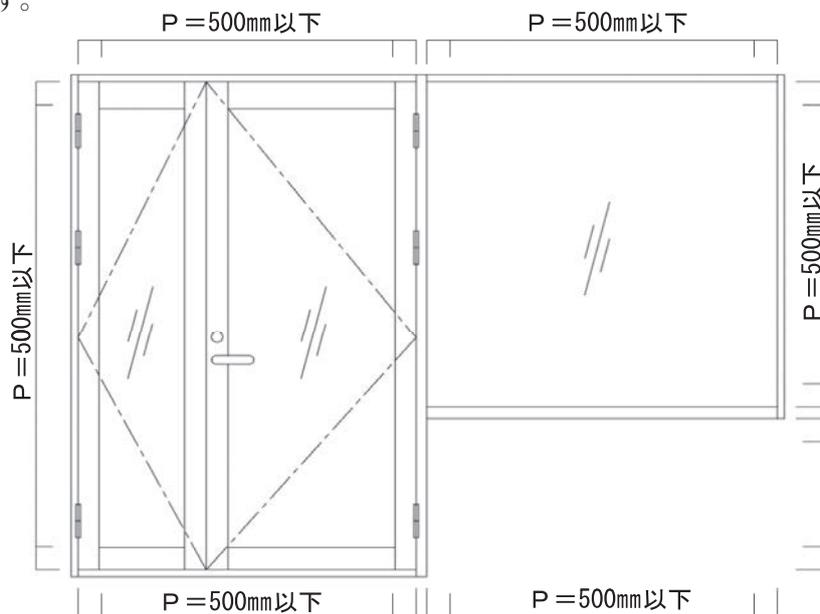
アルミフロント商品の供給者である私たちは、環境の変化に伴う風雨への備えとして、正しい商品（部材）を選択し、適正な防水処理を施す、と同様に組み立てた商品を実際に建物へと取り付けることもおろそかにしてはなりません。

そこで今回は、施工における注意点とその重要性を再認識頂きたく、本リーフレットを作成しましたのでご活用ください。

アルミフロント商品の固定（ガラス溝ねじ留め工法・アンカー溶接工法）

■ねじ・アンカーのピッチ例

アルミフロント商品を取り付ける、ねじ・アンカーの間隔は、両端から逃げた位置より500mm以下^{*}とします。



Point !

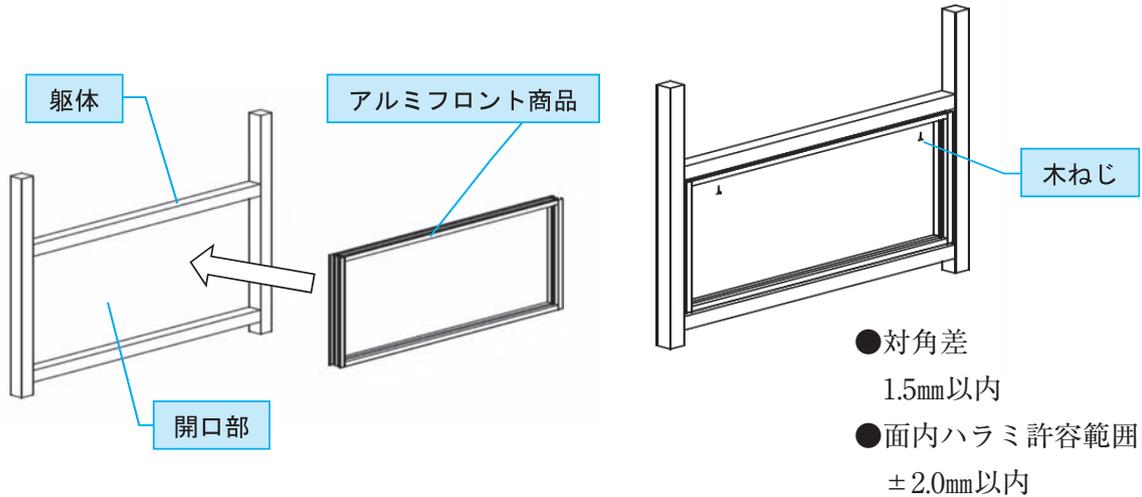
商品の機能を十分発揮できる様、アルミフロント商品と躯体は、ねじ・アンカーの間隔を守り、確実に固定してください。

^{*}、床に埋め込むステンレス製のレール・柵などはアンカーの間隔が異なる場合があります。

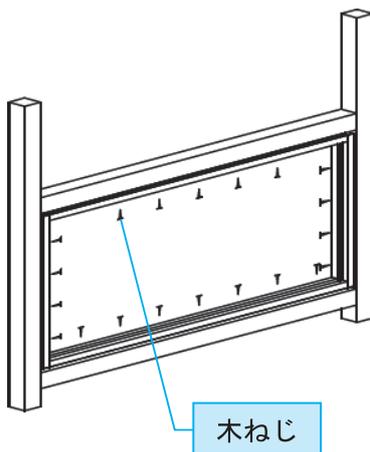
ガラス溝ねじ留め工法

■ねじ固定の手順

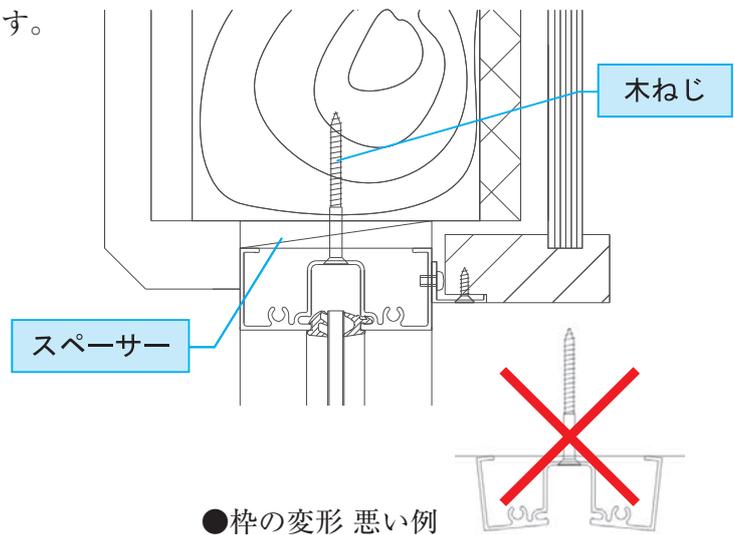
- ①アルミフロント商品を取り付ける開口部の水平・垂直・面違い、および開口部とアルミフロント商品それぞれの寸法を確認します。
- ②上枠の両端にスペーサーを入れ仮取り付けし、くさびなどを用いて対角・水平・垂直・ハラミを調整します。



- ③ねじ部には、躯体とアルミフロント商品とのスキ間にスペーサーを入れ、下枠⇒たて枠⇒上枠の順に本取り付けします。



■ガラス溝ねじ留め納まり例



Point !

1. アルミフロント商品をねじ固定する際、枠の変形がないよう注意してください。
2. 木造の建物にアルミフロント商品を取り付ける場合は、十分な長さの木ねじを使用してください。